

令和5年度産業厚生委員会 行政調査報告

調査日 10月11日12日13日（二泊三日）

調査地 愛知県長久手市・三重県いなべ市・愛知県常滑市

【1日目】

○調査先 愛知県長久手市 推定人口61,131人（2023年8月）

○調査事項 長久手田園バレー交流施設めぐりん村

長久手市が、田園バレー構想の指針の一つである「ふれあい・交流・体験の場」として平成19年4月に開設した「長久手田園バレー交流施設めぐりん村」都市近郊農業の活性化や地産地消、都市農村交流の促進を目的に交流拠点施設として整備された。

直売所では農産物をあえて安くは売らず「地域性・旬・希少性にこだわったスーパーより品質の高い商品が揃う店と認知されている。

○調査結果

農産物直売所は全国各地で賑わっているが、こちらの直売所のコンセプトあえて安く売らないというだけあって、安全をシステムで伝える方法として履歴管理システムを導入していた。

これは科学的に商品の安全性を伝えるためにお客様自らが店でタッチパネルに触れ、商品のバーコードをスキャンすれば栽培履歴

を確認できるシステムで農薬や化学肥料の使用量を知ることができて確かに安心して購入できると感じた。また正面の芝生が敷かれた広場は、フリーマーケットやバンドの生演奏も週末常に賑わっているようだ。この広場があるだけで小さな子ども連れの方も気軽に足を運んで、休日を過ごすのには健康的にも良いと実感した。

このあぐりん村は敷地内の隣で営業している温泉施設が運営しているらしく、温泉の帰りに買い物する方も多かった。



【2日目】

○調査先 三重県いなべ市 人口 44000 人

○調査事項 まちづくり拠点施設「にぎわいの森」

(1) 都市市民をひきつけるまちづくりプロジェクトについて

地域産業創出のため、いなべの豊かな自然、里山、農産物などあふれる地域資源を素材に企業・創業できる人をどのような方

法で育てているのか

(2) 単なる誘客のための商業・観光施設ではなく、まちづくりとづくりの拠点として位置づけられているが、これまでの事業効果は

(3) グリーンクリエイティブいなべ事業について

農と食の分野において、業界屈指の5つの飲食店と一つの試験農園がある。他県から、いなべ市に進出している飲食店もあるようだが、その魅力は何か

(4) 地域内交流やまちづくりへの参画又は市民参加のイベントについて

(5) 今後の計画・課題について

【いなべ市の取り組み】

いなべ市の新たなまちづくりの幕開けとして令和元年5月に合併特例債を活用して新庁舎とにぎわいの森がオープンしました。

またグリーンクリエイティブいなべをコンセプトとするまちづくりが、SDGs未来都市2020及び東海地区で初となる自治体SDGsモデル事業選定となった（令和2年7月）

グリーンクリエイティブいなべとは大きく3つのプロジェクトが

柱となっている。

① キャンペーン事業

地方創生交付金を利用して名古屋市内の商業施設で毎月キャンペーンを開催したほか新聞広告やウェブマガジンを利用し、グリーンクリエイティブいなべとにぎわいの森を広くアピールした。

② ローカルセンスショップ事業

出店する事業者については公募を行い分野・業態・パイオニア性・顧客からの支持・経営者としての資質に加え、にぎわいの森構想に共感しまちづくりへの参画を前提に事業展開する事を条件とした。結果として名古屋市や大阪市から高い技術と独自の発想を持つ事業者が集まった。

③ 生業事業

キャンペーン事業による関係づくりと、にぎわいの森を核とした新しいまちづくり構想に共鳴し、今若者が集まっています。特に新庁舎に程近い旧市街地である阿下喜地区では、2015年度以降空き家や空き店舗を活用したセレクトショップ・食堂・カフェ・ギャラリーなどが次々と開業しました。これらの場所は

まちの拠点となり、人や資源がつながり新たな業態が生まれる
きっかけの場となっている。

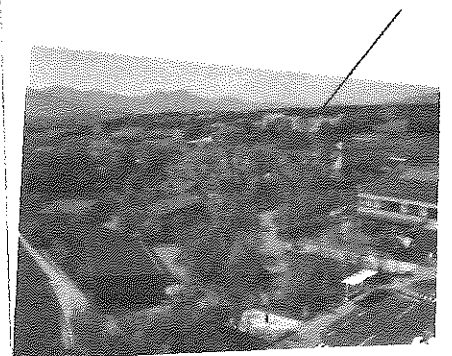
○調査結果・総括

にぎわいの森は新庁舎建設の時に森林だったところを伐採ま
た植樹したりして自然豊かな景観となったようだ。

またグリーンクリエイティブいなべとはいなべの豊かな自然・
里山・農産品等の地域特有の資源を発掘し都会的なものに磨き
上げる感性で都会の人々を魅了するモノ・コト・トキまで高め
ていく創造活動である。これをコンセプトに掲げているが、こ
の視点を大きく変えた提案や発想が素晴らしいと感じた。

そしてこの発想が実現して名古屋市や大阪市から移住し出店し
ているようだ。

実際若い女性をターゲットにおしゃれなカフェやパン屋さんが
立ち並び平日にもかかわらず賑わっていた。



にぎわいの木
Inabe Hütte 【いなべヒュッテ】

○調査事項 アウトドアシティーいなべ事業の運営について

- (1) 8年の事業期間となっているが、予算編成の取り組みについて
- (2) 3年連続西日本人気No.1の「青川狭キャンピングパーク」であるが、その魅力をどのように発信しているのか
- (3) 来訪者からの意見要望などは、どのようなことがあるのか
- (4) 年間の来訪者数に対して、事業収益やまちへの経済効果はどの程度なのか
- (5) 今後の課題・計画について

【いなべ市の取り組み】

- (1) 自然豊かな山辺エリアをカジュアルに資源活用。
人気の青川狭キャンピングパークや、犬と一緒にキャンプができる、やまてらす、北欧有名ブランド「ノルディスク」と連携した宇賀溪のフィールド建設など広域開発
- (2) アウトドア推進事業としていなべの里山に学ぶ山辺アクティビティ未来体験を様々計画実施している
- (3) ふるさと納税寄付者を招待し地域の魅力に直接触れ、行政職員と一緒に未来を話し合う座談会を実施し、いなべ市に対す

る愛着をもってもらって関係人口創出を目的とする

(4) 豊かな自然体験 7歳までのアウトドア体験は健康や教育に有意であるということである

(キャンプ・登山・サイクリング・火起こし体験など)

【調査結果・総括】

三重県は 60%が森林であるということもありいなべ市のキャンプ施設も自然をふんだんに活用し是非行ってみたいと思わせるような素晴らしい施設だった。特に夏休みは予約がいっぱいでノルディスク宇賀溪に関しては、アルバイトも 80 人雇用しているそうだ。

平成 15 年に 4 つのまちが合併したいなべ市は、合併当初認知度の低さが大きな課題だったらしい。そこで“無いもの探し”ではなく“有るもの探し”を行いこれによって全国に誇れる行政サービス「いなべブランド事業」が生まれたということだった。またいなべ市は、アウトドアフィールドとしての魅力が売りであることは、市内内外から認められているようだ。

そこに行き着いた営業戦略の一つは、「誰に売するのか」を明確にし、いなべ市は名古屋市と大阪市を結ぶ位置にありこの圏域に住む 360 万人のうちの特にアウトドア好きの 20~30 代をターゲットに設定

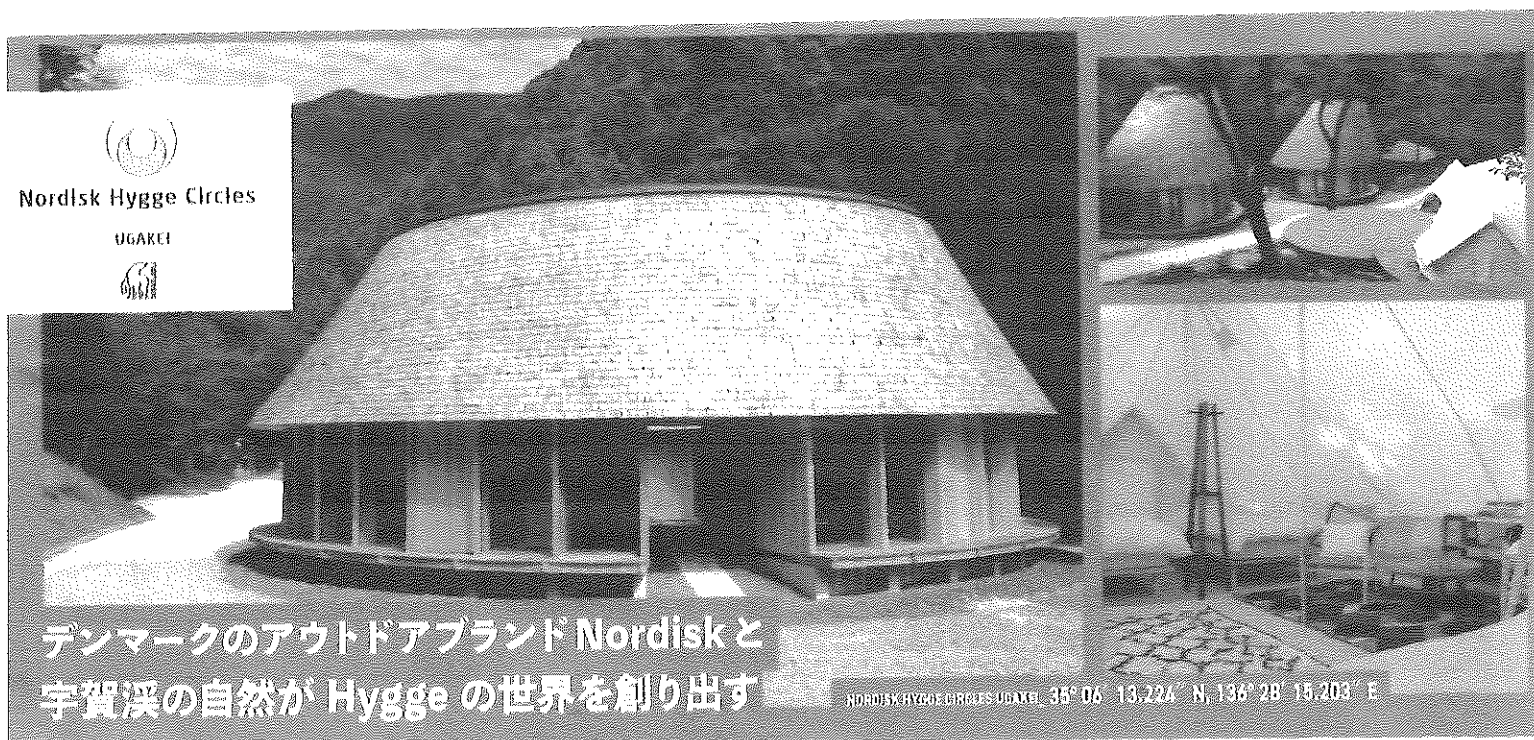
したそうだ。

グリーンクリエイティブいなべの事業内容・様々な提案に市長が賛同し、国に直接補助金の要望・相談に行き一気にこの事業が進んだそうだ。

予算は地方創生交付金を活用またノルディスクと連携したキャンプ場は、拠点整備交付金を活用したということだった。

いなべ市では3か所を見学させていただいたが、市民と行政が楽しみながら協働している様子が伝わった。

約半日の視察時間であったが、スケールが大きすぎてほんの一部の紹介に終わったと思うが、目的の施設だけでなく新庁舎内や併設されたシビックコアセンター（誰でも利用できる食堂や会議室として使える）なども見せていただき有意義な視察となった。



【3日目】

○調査先 愛知県常滑市 人口 58000 人（令和 5 年 9 月）

○調査事項 子育て支援について

(1) 子育て総合支援センターで実施している支援事業について

(2) 発達に特性がある子どもの家族向けのペアレントトレーニング講座について

(3) ファミリーサポートセンターについて

(4) その他

シルバー子育て支援事業「おさらい教室について」

【常滑市の取り組みについて】

(1) 市長 2 期目ということで「子育て支援は一丁目一番地」最優先課題ということで様々な取り組みをしている

(2) 産めるための環境作り・・・市民病院に不妊科を設置

育てるための環境作り・・・もうすぐ出産プレゼントギフト券 1 万円

(以前は支援が必要な妊婦への対応だったが、全妊婦訪問に変えた)

(3) 大人が学ぶペアレントトレーニング講座では子どもの接し方・悩んでいる家庭向けに少人数で講座を開催している

(4) シルバー子育て支援事業では、教員経験者などを募り会員の得意分野を活かし少人数の学習教室を実施している

○調査結果・総括

常滑市では、先ず子育て支援センターを見学させていただいた。とこ♡はあとルームの開放（交流スペースの提供）こちらは、広々とした明るいスペースで、利用者は半日で約35組の親子が通っているということであった。その中で信頼関係を築き悩みや相談に繋げていき早期の支援に繋げているようだった。

ファミリーサポートセンターとは、子育て支援の一環として委託事業ではあるが、援助会員を募集して保育園や学校・学童の送迎や預かりも担っているようだ。子育て中の家庭ではとても助かる取り組みである。

そして私が一番興味を示していたペアレントトレーニングだが、支援を必要とする子どもへの対応に悩む方が少人数のグループワークで学ぶ内容になっていた。年間6回の受講だが3回目で受講者全員が子どもの対応に自信がついたという回答だったそうだ。相談先もわからず一人で悩む方も多いと思うのでこの取り組みは、子育て中

の家庭にとっては有り難いし親子関係も良好になるきっかけになる
と共感した。

常滑市では、それぞれの説明を熱心にしてくださり質疑の時間が短
くなってしまったが、様々な取り組みの説明がしっかり聞いて有意
義な視察となった。

受講者募集!

子どもとの接し方のコツを知ろう

～大人が学ぶペアレントトレーニング～

子どもとの接し方のコツを学びます。お子さんとの日ごろの接し方を振り返りながら、ホームワー
クやグループワークで学ぶプログラムです。ご家庭の毎日が少しスムーズに、少し楽に過ごせる方
法を、少人数グループで一緒に話して、一緒に学びませんか?

毎回簡単な宿題が出ます

- 内容：第1回 一緒に話そう、一緒に学ぼう
～参加者の交流と、ペアトレについて少し知る～
- 第2回 子どもの行動観察と3つのタイプ分け
～子どもの好ましい行動に注目するために行動を3つに分ける～
- 第3回 子どもの行動のしくみを理解しよう
～本人の特性や感覚を踏まえて、ABC分析に当てはめて具体的に学ぶ～
- 第4回 上手な注目の外し方とほめ方
～好ましくない行動への対応の仕方とそれに対してのかかわり方～
- 第5回 子どもが達成しやすい指示を出そう
～環境調整とCCQとブローケンレコードなどの技法について学ぶ～
- 第6回 ペアレントトレーニングとは
～親子タイムを通してほめる場面を自ら作る～